

オリンピックの金・銀・銅メダルの値段は？

先月開催された平昌オリンピック大盛り上がりでしたね^^

今大会、日本勢が獲得したメダルは金4、銀5、銅4の計13個。

冬季オリンピックでは1998年の長野大会の10個を超えて最多となりました。

メダル獲得総数の1位はノルウェーの39個。開催国の韓国も過去最多の17個でした。

そんな各メダルの値段、つまりいくらで作られているか調べてみました。

開催国によって素材や大きさも異なり、金額も変わるようですが、ロンドン五輪の時を例に見てみましょう。

金メダルは、なんと92.5%は銀でできていて、金は1.34%、残りは銅でできています。つまり「金メッキ」というわけですが、それでも値段は4万円ほどです。ちなみに全部金で作った場合は200万円以上になるそうです。

銀メダルは93%が銀、残りは銅でできており2万円程度。

銅メダルは97%が銅で、残りは亜鉛やすすでできていて350円程度です。

この金額が高いか安いかはさておき、選手にとってお金以上の価値があることは間違いありませんね。



今月の「武将の教え」

「学問とは、人間はいかに
生きていくべきかを学ぶものだ」

吉田松陰は明治維新の陰の立役者ともいえる人物。高杉晋作を筆頭に明治維新で重要な働きをする多くの若者に思想的影響を与えました。この時代は偉大な先人の知識や経験、過去の歴史を知るためには、当然の事ながら文字を読めることが必要であり、遠くの人と意思の疎通をするためには文字をかけることも大事な事でした。また、ただ文字を読んだだけではなかなか書いてある人の糸までを読み取るというのは難しく、知識を学ぶためには解釈の仕方を学ぶ必要もあります。

そうやって「どう生きる道があるのか？いかに生きていくべきか？」を模索するため武士は学問を学んでいたのです。受験シーズンの学生の皆さんに聞いてほしい名言です。



松岡修造の「受験生への応援メッセージ」

あまりにも熱いメッセージなので紹介したくなりました。

「自分を信じろ！君なら出来る！You can do it!!」
「不安なんて怖くない かかってこい Come on!」
「最後、最後、最後の最後の最後の最後の最後の最後まで諦めるな!!!」
「自分の道は自分でしか開けないんだ！」
「敵は周りじゃない自分自身だ そう、お前が敵だ！」
「ハッキリ言うぞ、おれは松岡修造だ 君は誰だ」
「絶対合格 気合いださあ リポートアフター 修造！」
「出来るか出来ない 出来るか出来ない 出来るかそんなことじゃないんだよ やるんだ」
「何言ってるんだよ 甘えるな ノースウィート」
「毎日の積み重ねが実を結ぶ さあ本気を積み重ねていこう」
「今しか出来ないことに全力を注げ おれは君の応援に全力を注ぐ」
「知ってた？君の脳はまだ10%しか使っていないんだぞ！」
「リミッターをはずせ」
「大丈夫 日々成長してる！」

